

第98回東京箱根間往復学生駅伝競走 ご報告



写真提供：月刊陸上競技

田島公太郎（環1・九州学院）が関東学生連合チームのメンバーとして、7区（小田原～平塚）を走りました。第94回大会の根岸祐太（8区）、第97回大会の杉浦慧（5区）に続き、慶應箱根駅伝プロジェクト開始以来3人目の箱根ランナーとなりました。

結果は1時間6分33秒で区間21位相当（学生連合はオープン参加のため参考記録扱い）と、本人にとって不本意なものでしたが、箱根で戦うことの厳しさを感じることができ、チームとしての本選出場を目指す上で貴重な経験となりました。

今大会も、新型コロナウイルス感染症対策のため、各校とも沿道での応援は自粛となりましたが、テレビやラジオ、SNSなどを通じて本当にたくさんの方々に応援をして頂きました。心より御礼申し上げます。

田島 公太郎（環1・九州学院）

箱根駅伝の応援、誠にありがとうございました。これまで見たことがない量・規模のエールを頂き、走る前から箱根のもつ壮大さを感じていました。初めての箱根をひとことで表すならば「洗練」でした。もちろん当日の走りも然りですが、何よりも箱根に向けて歩んだ道のりが、言い表すことができないほど厳しいものだったからです。

本番が近くに連れて鮮明になってくるビジョン、3歩進んで2歩下がるかのように崩れてゆく走りの調子、支えてくれる仲間はいつでもいるのに募る孤独感。些細な躓きが、辛うじて保っている正気を常に攻撃していました。これが箱根なんだ、これを超えないと辿り着くことさえ許されないんだ、と痛切に感じた記憶は昨日のこのように思い起こされます。

そして出走。結果は悔しさ溢れるものとなりました。疲労が上手く抜けずスタートから下腿に余分な力が入り、早い段階で身体を消耗し尽くしたからだと考えられます。箱根に負けたんだと思いました。あれだけ夢見た大舞台を目の当たりにして怖気付いてしまったのでしょうか。もっとあおしておけばという気持ちでいっぱいです。しかし、同時に僕の中には「このままで終われる訳がないじゃないか」という想いも生じました。

箱根の借りは箱根で返すべく、必ずやチームとして帰ってきます。今回、「箱根に出る」とことと「箱根で戦う」とことの違いを知りました。後者を揺るぎなく持つチームが予選を突破できるということもです。今はこの経験をチームに還元するところから始めていこうと考えています。今年こそ飛躍するであろう陸の王者・慶應です。何卒応援のほど宜しくお願い致します。

保科 光作（長距離ヘッドコーチ）

日頃から多大なるご支援、ご声援をいただきまして誠にありがとうございます。

本年も学生連合チームの一員として田島が本戦の出場を成し遂げてくれました。結果は本人も私も納得出来るものではなかったですが、それでも出場すること、そのプロセスの中でチームに与える影響は大きいと感じました。予選会でチームトップでゴールした選手が本戦では戦うことすら出来なかったという事実が、田島のみならずチームを必ず強くする。その1つのきっかけに出来るよう今のこの瞬間から再度身を引き締めていこうと、翌日のミーティングで部員に伝え、その私自身の言葉で、私自身がこれからの1年をあの箱根駅伝の結果があったからこそこの結果を残せた、思えるように選手共々大きく成長して行きたいと考えています。

毎年同じようなメッセージになってしまい、応援して下さる皆様に結果で恩返しすることがなかなか出来ておりませんが、私のかつてのチームメイトで先輩である徳本監督が率いる駿河台大学が初出場を決めた光景を立川で目の当たりにし、次こそは慶應が続けるように、諦めることなく直向きに前進していくことが唯一の近道と信じて精進して参ります。

本年も「慶應箱根へ」を信じて下さる皆様の良い1年の一因を担えるよう全力で活動して参ります。引き続きのご声援、ご支援のほどよろしくお願いいたします。

小野 裕幸（長距離コーチ）

田島の箱根駅伝出場にあたり、多大なるご支援、ご声援をいただきまして誠にありがとうございました。今回は、事前の準備期間の短さ、1年生という経験値の少なさなどもあり、田島本来の走りを発揮させることができず、箱根駅伝の調整の難しさを改めて痛感する形となりました。ただ、田島自身は悔しさと共に、この経験から多くの学びを得ることができたとも言っておりまして、今回の経験を必ずチーム強化の糧にしてくれると思います。

次回の予選会は市街地を使った従来のコースに戻る可能性が高くなっており、過去2回と比べよりタフなレースになることが予想されます。そのような背景から、今後は単純な持ちタイムだけではなく、強さというものを常に意識しながらチーム強化を進めていく必要があると感じています。2022年の予選会で、さらに成長した選手の姿をお見せできるよう努めてまいりますので、今後とも変わらぬご支援、ご声援の程よろしくお願いいたします。

慶應箱根駅伝ラッフル 2021-2022 寄付募集中

慶應義塾体育会競走部は、2017年4月より慶應箱根駅伝プロジェクトを始動し、その強化に取り組んでおります。

プロジェクト初年度から関東学生連合に根岸祐太が選出され、2018年1月の本選において復路8区を疾走しました。翌2019年度は司代隼（政4・希望ヶ丘）が関東学生連合のメンバーに選出されましたが、残念ながら補欠に回りました。そして昨年度は杉浦慧（政4・成蹊）が関東学生連合の主将として5区の山登りに挑み、今回は田島公太郎（環1・九州学院）が1年生ながら7区に抜擢されました。

プロジェクト1期生であった杉浦と司代が最終学年を迎えた今年度の予選会は、チームとしての本選出場を狙ってハイペースでの勝負を挑みました。残念ながら本選には届きませんでしたが、その積極果敢な走りは、確かな爪痕を残しました。

スポーツ推薦制度がなく、高校時代は無名だった選手ばかりのチームが、たった数年の間にここまで力をつけることができたのは、ひとえに保科、小野両コーチの指導力と、学生達の熱意や創意工夫の賜物です。慶應の育成力は、いまや学生長距離界において注目を集める存在となっています。

そして、この育成現場を支えるのに不可欠なのが、安定的な強化資金です。慶應箱根駅伝プロジェクトでは、強化資金の確保を目的として、2018年度よりラッフル(※)による寄付金を募集しており、これまでの3年間で総額502万円のご支援を頂きました。無償で景品をご提供頂いた多くの企業・団体・個人の皆様と、ラッフルを通じてご寄付を頂いた方々に、心より御礼申し上げます。

今年度も、**2022年分の強化資金として、慶應箱根駅伝ラッフル2021-2022の寄付受付を行っています。**本プロジェクトの趣旨にご賛同頂ける皆様におかれましては、今年度も引き続き、ラッフルへのご協力をよろしくお願いいたします。

※ ラッフルは「慈善福引」と訳され、欧米では寄付金を募る効果的な手法として、広く活用されています。寄付者へラッフルチケット（福引券）を交付し、慶應箱根駅伝プロジェクトを応援して下さる企業・団体などから無償でご提供頂いた様々な景品の抽選を行い、当選した寄付者へ景品を送付させていただきます。

1. ラッフルチケット購入によるご寄付

スマートフォンやPC上の簡単な操作で、慶應箱根駅伝プロジェクトの公式サイトからご寄付頂けます。

「慶應 箱根」で検索
<https://hakone-pj.keio-tf.org/>

「プロジェクトを支援する」をクリック

寄付の口数を入力して「寄付する」をクリック

クレジットカード
またはAmazon Payで
寄付完了

2. ラッフルへの景品のご提供

企業・団体・個人の皆様から、ラッフルの景品の無償でのご提供を募集しております。ご提供頂く景品は、慶應義塾や駅伝、陸上競技、スポーツとの関連性がないものでも、慶應箱根駅伝プロジェクトへの寄付者に喜んで頂けそうな物品であれば、何でも結構です。

例) スポーツグッズ、健康食品・サプリメント、その他食品・飲料、衣料品、日用品、文具・玩具、家電製品、各種チケット類（旅行券・宿泊券、食事券など）など

恐れ入りますが、食品・飲料等につきましては、衛生管理上の都合により、生もの・温度管理が必要なもの、賞味期限が短いものなどはご遠慮ください。

景品のご提供をご検討頂ける場合には、以下の慶應箱根駅伝プロジェクト事務局のメールアドレスにご連絡ください。

hakone_raffle@keio-tf.org

3. スケジュール（予定）

強化資金ご寄付の受付期間： 2021年8月15日 ～ 2022年3月31日

ラッフル景品ご提供の受付期間： 2021年9月15日 ～ 2022年1月31日

当選発表時期： 2022年4月予定

景品発送時期： 2022年4月予定

4. その他

景品をご提供頂いた企業・団体・個人様につきましては、慶應箱根駅伝プロジェクト公式サイトの上ラッフル特設ページにおいて、ご提供者名、ご提供物品の名称・紹介文を掲載させていただきます。

景品のご提供にあたり、当方への送料はご負担いただきますようお願い申し上げます（当方より当選者への送料は当方にて負担させていただきます）。

今年度のラッフル景品のご提供のご連絡は、2022年1月31日まで受付をいたします。